

街と海をつなげる 公園のようなターミナル 特定テーマ ①②

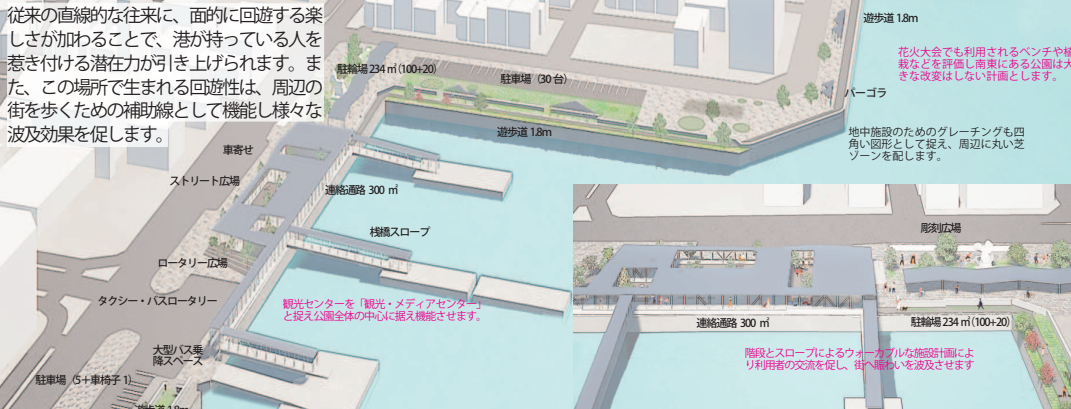
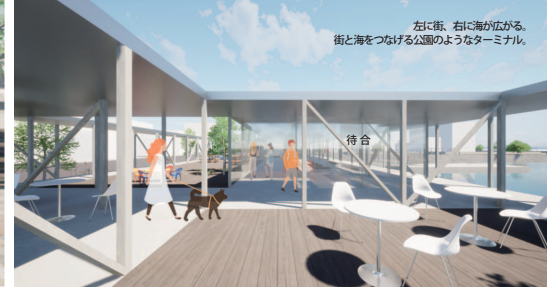
多くの世が行き交う場所に、気軽に座って過ごすことのできる広場が出来上がります。人々の行き交う姿や滞在し交流する姿が、これまでになかった風景として瀬戸内の海と重なり、公園のような情景を作り出します。港全体が公園として捉え直され、幅広く活用されることが期待できます。まず日常的にこの港で過ごす利用者が増え、徐々に来街者が増加し、街並みに活気が伝播していきます。

テントやキッチンカーでの出店以外に、近隣にはテイクアウトできる飲食店が多数あり、屋外の飲食スペースとして活用されることが期待できます。また、それらの比較的小さい店内では客席が少ないため満席になりやすく商機を逃す傾向にあるため、この広場により機会損失を防ぐことができます。座って過ごす場所の新設により、街の滞在時間そのものが伸びるため、立ち寄る店の数が増え、回遊性が向上し街全体への波及効果が期待できます。



■新しい夏の風景

夏場、室内に多くの人がある風景が当たり前になりつつあります。大きな屋根の下にあるこの軒下では、日差しが遮られた上に常に海からの風が吹くため、快適な屋外空間を街に提供します。



家具を基本単位としたランドスケープ 特定テーマ ①②③

三原市役所と同程度、浸水対策のために床を高くしています。街との高低差を気軽に座ることのできる階段状にデザインすることで、散歩を楽しむ多世代の人々がたまたま隣同士になり出会い、ふれあい、それがまたこの地域の暮らしに還元されます。3人掛けのベンチでは経験できない「隣り合って街に座る」体験から、街と海と人々による新しい歴史が作られます。公園内に散りばめられた付随施設やパーゴラなどもターミナルと同じようにデザインされます。それらの軸組を利用してテーブルやベンチが造作され憩いのスペースが形成されます。また、港全体をジグザグに横断する胸壁に応力負担させた小さなテーブルやベンチ、植物の飾り棚などが構造を傷めない程度に造作されます。



(1) 業務の実施方針、取り組み体制、設計チームの特徴、特に重視する設計上の配慮事項
確実性・柔軟性・行動力を活かした実施体制／企画運営と設計

中国地方に拠点を持ち、いつでも三原市にかけつける機動力と、対話によってともに考える柔軟性をあわせもつチームです。設計者は、中国地方において複数の官庁事務所（防災拠点・安全性分類1類A類甲類）の設計・監理経験があり、集会・防災拠点としての機能や予算・工期の管理を確実にいきます。また、設計者はマルシェや古本市等を主催として企画運営しており、設計段階から街の方々とともにイベントなどの企画立案に寄与します。

■工期短縮・コスト削減の工夫 特定テーマ ③

寸法を抑え、一般流通材を利用して緊結する軸組は組立・運搬が容易で、仕上げを含めた全体を簡素な作りとすることで工程を短縮させます。また深い庇を利用して遮熱をやり、機械空調に頼りすぎない快適な環境を形成します。大きな一室とせず、各内部空間を小さな気積で区切っているため、適当な大きさの個別空調機により初期コストを抑えながらも効率的に空調し運用コストを削減できます。また、メンテナンスに配慮し、鉄部は溶融亜鉛メッキを施し、木部は高耐久化木材に高耐候性無機系塗料を塗布します。



■ZEB Ready を見据えた断熱性と空調方式 特定テーマ ③

高断熱性能の屋根、壁面、ガラス面とします。ターミナルは年中無休で機器の稼働率が高いため、維持管理が容易で信頼性の高いシステムとして、アンダーフロア型の居住域空調方式を採用します。他、環境に適した高効率機器を採用しZEB Readyを実現します。

